

咲かウーマン

いっぱい

「花づくりを通して明るい家庭を築き、緑化運動を推進し、美しい町づくりに貢献しよう」と活動しているのが、富士市花の会。昭和四十一年に誕生し、会員数五千人。街角や道端を彩る花壇百八十カ所をつくり、人々の目を楽しませてくれます。

種まき、植えかえ、植えつけなど、きれいな花を咲かせるにはそれなりの苦労が必要。花の会技術指導員三人に、地区での花づくりなどについて話していただきました。

大門町通りは

花通りの

佐野千鶴子さん(岩松)

「岩本山のふもとの実相寺、その門前の通りを大門町通りと言います。そして別名を花通りとも言います。七・八年前から近所の仲間も花の苗づくりを始めて、い



△電柱に花が咲く



△苗の水やりは毎日欠かせない

い苗ができると交換し合ったりして。それをみんなに見てもらおうとプランターなどに植え、道から見える場所に置いたのが、花通りの始まり。『きれいなね』って褒めてもらうとうれしくて、百回ぐらいいの長さですけど、いつも花が絶えないんです。

私たち岩松地区花の会花壇は二十五カ所。各地区ごとの責任者を中心に、花壇の色彩デザインを考え、種まき、植えつけなどの年間計画を立てます。真冬でも、葉ボタン以外に花を咲かせたいのですが、ことは高校総体用の花の準備が忙しかったので、苗の準備ができませんでした。

草花とのつき合いで一番楽しいのは、種が発芽したときと最初の花が咲いたとき。自分でつくった苗は、一本一本みんなかわいいたんだんだん大きくなって考えていた色の花が咲く。生命の神秘を感じますね」



花の会のシンボル
富士美花壇

私のお薦めは

パンジー

清水靖子さん(吉永第二)

「吉永地区花の会の会員は二百十人。五地区に分かれ、十三の花壇をつくっています。昨年からは、すべての花壇用の苗を育てようと、種まきを始めましたね。ことしの花壇コンクールでは、五地区とも



△一本一本丁寧に移植

入賞したんです。種をまいて苗を育てるって、子供を育てるのと同じです。花壇に植えた後もきれいに咲いてほしいって、今まで以上に手をかける。そんな花への愛情が、入賞へ結びついたんだと思います。

月一回の役員会は、土づくりや子防など花づくりについての勉強会が中心。二十人ぐらいい集まるので、おしゃべりも盛んですが話の中身は『上手に咲かせるコツは』、なんて花のことばかりです。

私の薦める花はパンジー。花の色が多く、花期が長い。春風にそよぐ様は風情がありますよね」



△近くの花壇へ苗運び

場所はここ



私たちは花

田を花で

ことしの花壇コンクール
優秀花壇



下中区花壇

△リビングストーンデージー、チューリップなど



ふれあい花壇

△赤・白・ピンクなどのハナスベリヒユ



中比奈ほのほの花壇

△テランセラ、トレニア、サルビアなど



△家の周りも花でいっぱい

家庭にも花を

内田冬子さん(今泉)

「今泉地区は、坂が多く空き地が少ないんです。それで、日当たりの悪い場所やごみ置き場の隣りにも花壇をつくったりして…」

でも昨年の県花壇コンクールで、県知事賞をもらったんですよ。写真審査なので、花壇の写真と一緒に敬老会の会場を飾った花や、駅伝、体育祭に店を出した写真など



△キンギョソウ、余ったら分けますよ

もたくさん展示しました。そんな幅の広い活動が認められての受賞だったんです。地域の行事に顔を出すと、仲間もふえるし花壇もかわいくなってもらえるし、一石二鳥ですよ。これからは花壇だけでなく家庭にも花をと、種から育てた苗を花の好きな人に分けたいなと思ってます」

花咲かウーマンお薦めの

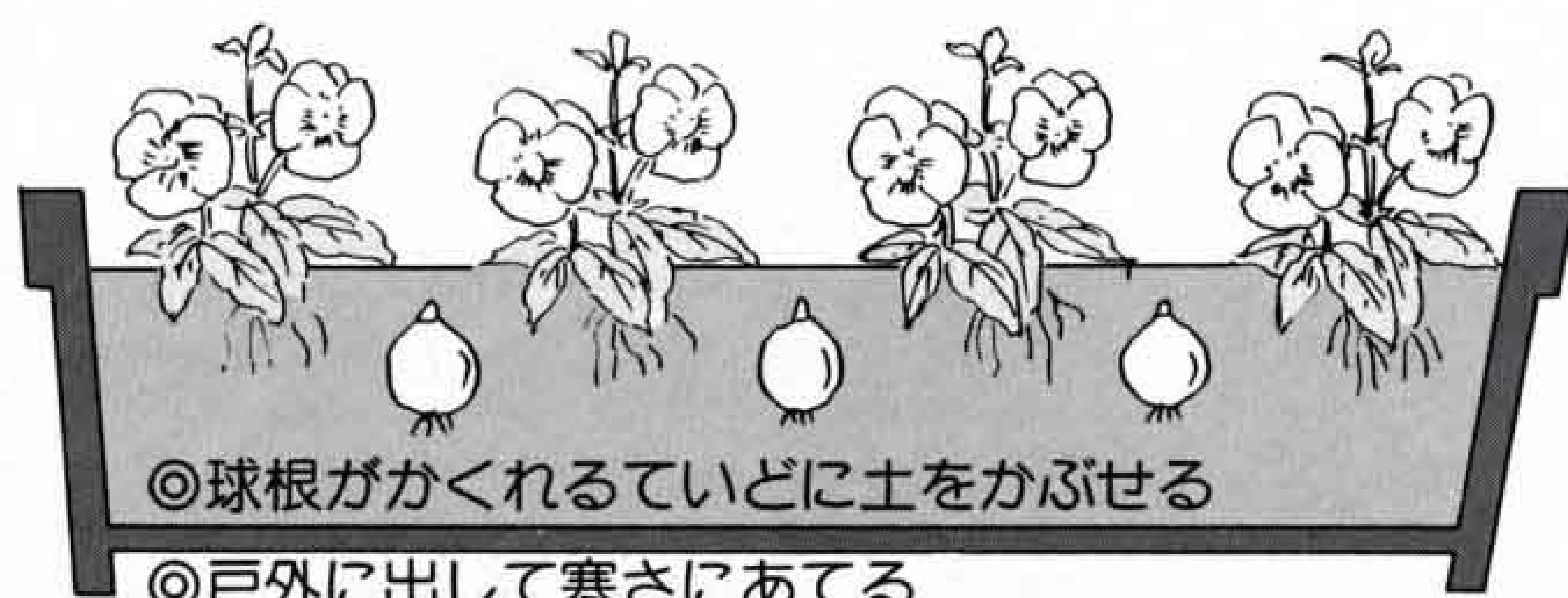
チューリップとパンジーの混植

チューリップ、アネモネ、スイセンなど、秋植えの球根は遅くとも十二月末までに植え、春に花を咲かせます。同時にパンジーなど背丈の低い草花を植えておくと、チューリップなどが咲くまでの間も花を楽しめます。また球根への水やりも忘れないで済むでしょう。

土は庭土6に腐葉土4を混ぜ、化成肥料を適量入れる。

花や緑化の
問い合わせは

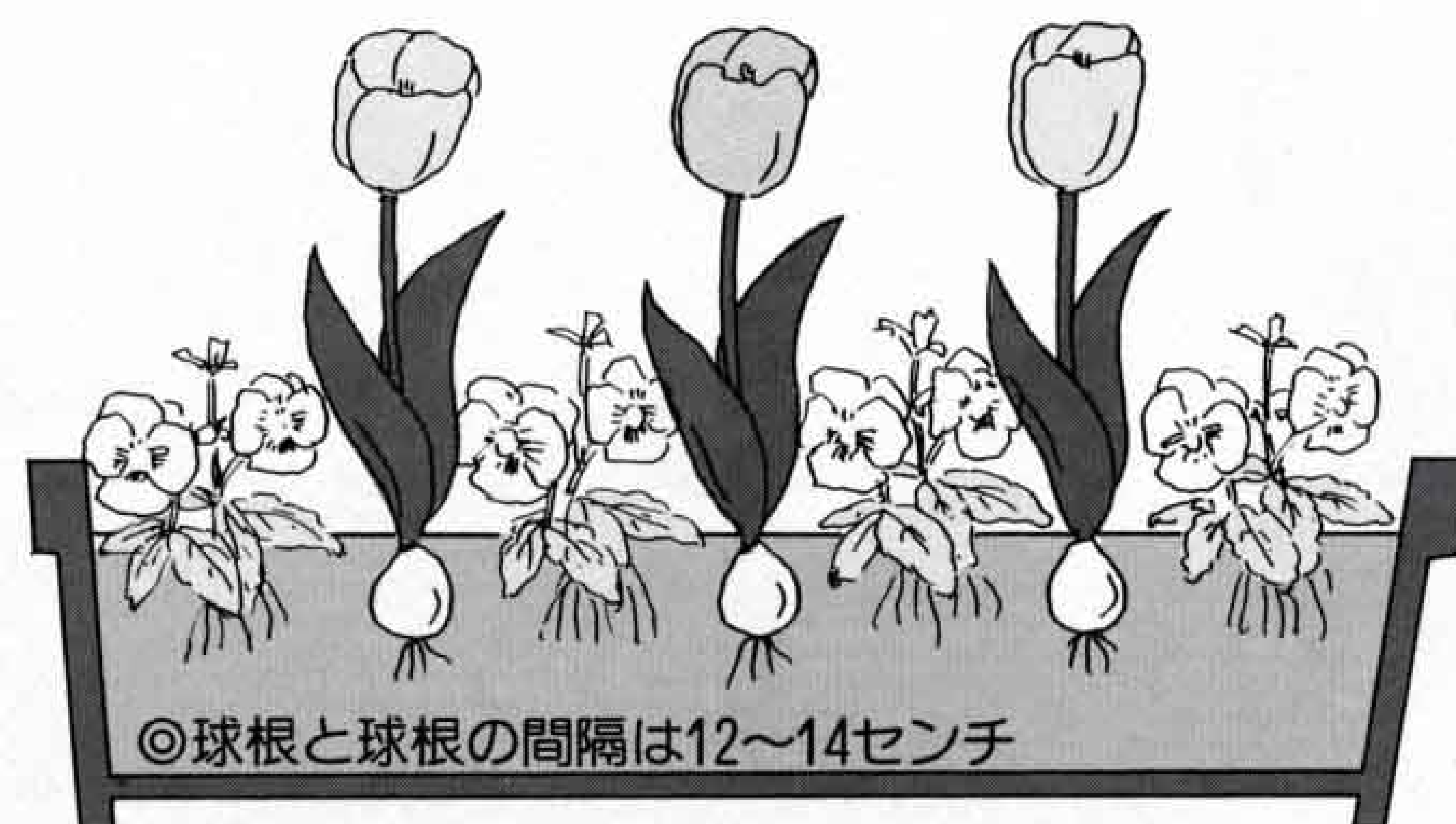
みどりの課 内線二六六七



◎球根がかくれるていどに土をかぶせる

◎戸外に出して寒さにあてる

◎水やりは午前中



◎球根と球根の間隔は12~14センチ